平成 30 年 5 月 31 日

我が国の大学スポーツの革新に向けて

筑波大学アスレチックデパートメント
アスレチックディレクター 山田 幸雄
副アスレチックディレクター　山田 晋三

2018 年 5 月 6 日に起きた日本大学と関西学院大学のアメリカンフットボールの試合における事件は、我が国における大学スポーツの課題を浮き彫りにするとともに、その将来のあり方に大きな影響を与える憂慮すべき深刻な問題です。

今般の事件は、大学スポーツにおいてこれまで曖昧であった幾つかの課題を明らかにしています。事件を起こした学生の試合における違反行為の直接の責任は本人にあるとしても、それを誘引した原因を考えなければなりません。監督と呼ばれる者は試合の責任者であり、その責務は明らかです。しかしその責任の範囲が不明です。スポーツ活動が「課外活動」となっていることに鑑みると大学の持つ責務の範囲はさらに曖昧です。

一方、傷害を受けた学生のリハビリテーションに関わる経費は誰の負担になるのでしょうか。対象学生が保険に加入していれば一義的には問題がないように見えますが、その保険料は誰が負担すべきものなのでしょうか。また、事件が訴追された場合の対象者は誰なのでしょうか。

筑波大学は本格的に大学スポーツの改革へと船出することを決心しました。上に述べてきたような課題を認識し、それらの課題解決に向けて、学生スポーツの改革を進めてきた米国の大学の活動を研究し、本年４月に筑波大学の学内組織としてアスレチックデパートメントを設立しました。スポーツに参画する学生達の安心・安全を第一に考え、学生達のアスリートとして指導支援はもとより、学業あるいは卒業後やアスリートとしての活動終了後の問題解決に向けた取組みを始めています。

大学が学生達のスポーツ活動に見識をもって関わり、大学スポーツの価値を発信していきたいと考えています。現在、外部から様々な人員を招聘し、中立的な立場で学生の成長のための指標や全学的なプログラムづくりに取り掛かっているところです。

アスレチックデパートメントを立ち上げた意味に鑑み、意見を述べることといたしました。今後、皆様との協業、協働を提言させていただくとともに、こうした取組みへのご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

「大学スポーツの改革に向けた議論を」

筑波大学長 永田 恭介 コメント

大学は教育研究機関であり、学生はそこでは学修者です。「大学スポーツ」の目的は学生の成長を促すことにあります。言うまでもなく、スポーツ、体育、あるいはそれらに関わる医学、コーチング学、行政やビジネスを含めたマネジメント学などは大学の研究教育の対象分野です。

一方、大学におけるスポーツ部活動の位置づけ、あるいはそこで活躍する学生達への支援のあり方などについては曖昧なままです。今後の大学スポーツの望ましい発展を願い、「大学スポーツの統括のあり方」や「大学が主体的に関わるスポーツマネジメントのあり方」について、志を同じくする先生方ならびに大学スポーツ関係者と大いに議論を進めて行きたいと考えています。

国立大学法人筑波大学
アスレチックデパートメント
〒305-8574 茨城県つくば市天王台 1－1－1
電話：029-853-5779
Fax：029-853-2875
Mail : contact@tsukuba-athletics.com